

令和5年度 江戸川区立新堀小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	進んで考え 学び合う子 心ゆたかで 思いやりのある子 健康で たくましい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	たのしい学校 あかるい児童 げんきな教師	た・体力づくりの あ・挨拶ができる子 げん・限界突破する教師	し・心情づくり い・生き方づくり る・ルールを守る子 い・挑む(挑戦する)子
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> 体育の指導法を研究し、授業改善を図ることにより、教師が指導法の基礎を身に付け、体育授業の充実を図れた。 <課題> 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、問題解決型の授業を多く取り入れていくことが必要である。				

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策									
					取組	成果	評価	コメント										
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・誰一人取り残さないための学力向上に向けたアクションプランを確実に実施するための新堀スタンダードの作成 ・一人一台端末を積極的に活用した個別最適な学びの実現 ・授業支援アプリを活用した授業改善 ・複数教科における教科担任制の実施 ・教育アドバイザーによる学校訪問、授業改善を実施 ・継続的な補修教室を通じた、きめ細やかな学習支援の推進 ・朝学習を活用した読書、計算、漢字等の継続的な取組 ・外国語指導助手(ALT)の活用 ・外国語(活動)を通じた、コミュニケーション能力の育成	・新堀スタンダードの実施率100% ・全学年において教科書の拡大や動画を活用した学習を100%実施 ・高学年においてアプリを活用した思考の整理等の学習を100%実施 ・第5・6学年において「江戸川っ子 読書科コンクール」への取組を100%実施 ・ホームページ等において「読書科」に関する取組を毎月公開 ・高学年の社会科・理科において教科担任制を100%実施 ・教育アドバイザーによる学校訪問、授業改善を年間10回以上実施 ・補修教室を年間150回実施 ・年間を通じた朝自習の実施(10分×週3×35週以上) ・第3～6学年において外国語指導助手(ALT)との学習を年間35回以上実施 ・外国語(活動)が楽しいと感じる児童80%以上	A	B	・新堀スタンダードを8月末に完成させた。2学期より実施を開始した。 ・全学年において教科書の拡大や動画を活用した学習を100%実施できている。 ・高学年においてアプリを活用した思考の整理などの学習を100%実施している。 ・第5・6学年において「江戸川っ子読書科コンクール」への取組を2学期までに実施する計画を立てている。 ・学校より等において「読書科」に関する取組を公開した。 ・高学年の社会科・理科・外国語において教科担任制を100%実施している。6年生は2学期より全教科で100%実施している。 ・教育アドバイザーによる学校訪問、授業改善を9月までに4回行った。 ・放課後補修教室を全学年毎週実施している。 ・週3回以上、朝自習・朝読書を実施している。 ・第3～6学年においてALTとの学習年間150回実施予定のところ、約5割実施済みである。 ・外国語(活動)が楽しいと感じる児童が80%以上いる。	B	・タブレットを活用できていて、とてもよい。 ・テレビやタブレットを上手に活用していることがわかった。 ・取組に対し、目標100%実施に向けた努力を引き続き目指してほしい。 ・放課後補修教室などで、学力を上げる取組をこれからも継続してほしい。	・年度末まで、目標100%実施に向けて引き続き取り組んでいく。 ・学校よりやホームページなどで読書科に関する取組を毎月公開していく。									
										<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・探究的な学習を通じた、主体的に学ぶ資質・能力の育成	B	B	・第5・6学年において「江戸川っ子 読書科コンクール」への取組を2学期と3学期に分けて実施する計画である。 ・「読書科」に関する取組を2学期から毎月公開していく。	B	・取組に対し、目標100%実施に向けた努力を引き続き目指してほしい。	・「江戸川っ子 読書科コンクール」への取組を2学期末までに実施する。	
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上>  (食育の充実) ・正しい知識と望ましい食習慣	・運動の日常化・外遊び奨励 ・継続的な運動・チャレンジ旬間(持久走・なわとび等)による運動時間の確保  年間計画を含む全体計画をもとに、学校全体で計画的な食育を推進する。	・児童アンケートを実施し、「休み時間は校庭で遊んだ」と回答する児童が80%以上 ・年間を通じた新堀タイムの実施(15分×週1×35週以上)  ・指導計画の実施率100%	A	A	・児童アンケートを実施し、「休み時間は校庭で遊んだ」と回答する児童が80%以上いた。 ・新堀タイムを毎週実施(15分×週1×35週以上)できている。	A	・運動する機会や場所が減っていると思うので、たくさん動いて体力をつけてほしい。 ・取組に対し、目標100%実施に向けた努力を引き続き目指してほしい。	・継続して新堀タイムの内容を充実させる。									
										(基本的な生活習慣の確立) ・基本的な生活習慣の確立	教師の共通行動に基づいた生活指導を徹底する。	・新堀スタンダード(生活編)の実施率100%	A	B	・新堀スタンダード(生活編)を実施できている。	B	・食の大切さ、食べ物を大切にする気持ちを育ててほしい。 ・残飯量がどのくらいあるか知りたい。 ・残飯量を減らす取組をお願いしたい。	・年度末まで、目標100%実施に向けて引き続き取り組んでいく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・副籍児童との交流及び共同学習の実施 ・支援を必要とする児童の支援シートの作成 ・児童の居場所づくりとした、エンカレッジルームを活用	・副籍児童の保護者の要望に応じた交流の実施率100% ・支援を必要とする指導の支援シートの作成率100% ・エンカレッジルームを必要とする児童の利用率100%	A	A	・副籍児童の保護者の要望に応じた対応が100%できている。 ・支援を必要とする児童の保護者と連携をとり、指導の支援シートを100%作成した。 ・エンカレッジルームを必要とする児童への対応を100%している。	B	・教室に行かたらない児童にどんな対応をしているのかわかった。 ・今後も、個にあった指導を全体で共有しながら支援体制を整えてほしい。	・年度末まで、目標100%実施に向けて引き続き取り組んでいく。 ・今後も特別支援委員会を中心に、支援体制の充実を図る。									
										「学校2020レガシー」の設定	・地域の教育力を生かした教育活動	A	B	・サツキの差し芽体験を通じた、自国の文化と他国の文化の良さについて考える機会を設定(総合的な学習の教育活動の中において毎年実施)	B	・今年は盆踊り大会などがあった。踊り方などを知ることによって自国の文化の良さを感じるかと思う。	・今後も文化的な学習を積極的に取り入れていく。	
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	・異学年の縦割り班活動を通じた、計画する力や実行する力の育成 ・いじめの未然防止・早期発見・早期対応 ・いじめは絶対に許されないという認識の確実な定着(定期的な調査の実施) ・新堀小学校いじめ防止対策基本方針に関する全校朝会を年間3回以上実施 ・不登校児童の状況調査、情報共有、保護者との連絡を毎月2回以上実施し、30日以上欠席児童の社会的自立に向けた支援を100%実施 ・スクールソーシャルワーカーの巡回訪問 ・hyper-QUを活用し、要支援・要配慮児童への聞き取り、面談を100%実施 ・個別のニーズに応じた支援	・異学年の縦割り班活動を年間10回の実施 ・いじめ調査(アンケート)を実施し、「いじめはいけないことである」と回答する児童が100%であった。 ・新堀小学校いじめ防止対策基本方針に関する全校朝会を年間3回以上実施 ・生活指導連絡会を毎月1回以上実施している。 ・不登校児童の状況調査、情報共有、保護者との連絡を毎月2回以上実施し、30日以上欠席児童の社会的自立に向けた支援を100%実施している。 ・不登校児童が学校外でどんな学習活動をしているか100%把握している。 ・巡回訪問を要する家庭に対し、sswによる支援が100%できている。 ・hyper-QUを活用し、要支援・要配慮児童への聞き取り、面談を100%実施した。 ・個別のニーズに応じた支援をその都度全て行っている。	A	B	・異学年の縦割り班活動を計画通り実施できている。 ・いじめ調査を全学年年間1回実施済み。 ・いじめ調査(アンケート)を実施し、「いじめはいけないことである」と回答する児童が100%であった。 ・新堀小学校いじめ防止対策基本方針に関する全校朝会を年間3回以上実施済み。 ・生活指導連絡会を毎月1回以上実施している。 ・不登校児童の状況調査、情報共有、保護者との連絡を毎月2回以上実施している。 ・不登校児童が学校外でどんな学習活動をしているか100%把握している。 ・巡回訪問を要する家庭に対し、sswによる支援が100%できている。 ・hyper-QUを活用し、要支援・要配慮児童への聞き取り、面談を100%実施した。 ・個別のニーズに応じた支援をその都度全て行っている。	A	・ご家庭の協力なしに先生方だけの対応では解決は難しいと思う。 ・不登校児の対応についていじめ以外では、無理してまでも登校させることが本人やご家族にとって本当に良いことなのかわからない。しかし、社会に出てから心配。 ・家庭で生活リズムを作ることの大切さを感じる。	・今後も定期的に関係機関と連絡をとる。 ・常に振り返りを行い、課題を明確にして組織的に指導に当たる。									
										<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・ホームページを活用した、教育活動の公開 ・学校公開の積極的な実施	A	A	・学校ホームページの更新を毎週2回以上実施 ・学校公開を年間6回以上実施	A	・ホームページの更新がとても良いと思う。 ・内容は、小さな出来事も良い。	・今後も継続して内容を更新し、教育活動の様子を発信していく。	
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評価の効率化・適正化 ・学校ホームページによる学校関係者評価の公表	・学校評議委員会を年間3回以上実施 ・関係者評価を年間2回実施 ・保護者アンケートを年間1回実施 ・学校ホームページによる学校関係者評価の公表を年間3回実施	A	A	・学校評議委員会を2回(内1回は書面)実施した。 ・関係者評価を1回実施した。 ・保護者アンケートを3学期に実施する。 ・学校ホームページによる学校関係者評価の公表を2回実施した。	A	・今後も継続していく。	・今後も地域・保護者と連携して教育活動を進めている。 ・改善点については都度、見直してよりよいものを目指す。									
										<美しい物に感動する豊かな感性の育成> ・本物を直に感じることに児童の健全育成	・ゲストティーチャーを活用した授業の充実	A	A	・本物の素晴らしさを実感できた児童(感想による)が90%以上いた。	A	・今後も本物に触れられる機会を作れるようにしてほしい。 ・学習の場を広げられていることが良い。	・今後も積極的にゲストティーチャーを活用する。	
特色ある教育の展開	<特別活動の推進> ・集団における生活及び人間関係の形成	・自分の役割をもち、みんなのために活躍できたと思う高学年児童が80%以上	・自分の役割をもち、みんなのために活躍できたと思う高学年児童が80%以上	A	A	・自分の役割をもち、みんなのために活動できたという感想をもった児童が80%以上いた。	A	・今後も高学年が自分の役割をもつことはとても良い。いろいろな経験をさせてほしい。	・今後も積極的に「グスタティーチャー」を活用する。									
										・たてわり班活動の充実	A	A	・高学年が自分の役割をもつことはとても良い。いろいろな経験をさせてほしい。	・今後も、縦割り班活動の内容充実に向けた計画を特活部を中心に行う。				